



2026年度 計算機科学実験及演習3 全体ガイダンス

HW

川原 純
安戸 僚汰
長野 匡隼

SW

末永 幸平
和賀 正樹
池淵 未来

技術職員：加藤 和成



重要なこと

- **実験室は飲食厳禁**
 - 水分補給は部屋の外で



今日のスケジュール

- 13:15～ 実験3共通の実施要領説明
- その後 実験3ハードウェア実験 講義と課題の説明
 - ※ ソフトウェア実験については、後半の初回に説明を行います



実験3HW 担当教員・TA紹介

- 川原 純（准教授）、安戸 僚汰（准教授）、長野 匡隼（助教）、加藤 和成（技術職員）
- TA: 修士 or 博士学生。実験3HWを過去に受講した学生が中心
 - 質問はまず TA に
- 受講生のみなさん: 将来的にTAになってくださると嬉しいです



スケジュール

日程	内容
4/9(午後)	実験3全体説明 (本講義)
4/10(午前、午後)	ハード講義・導入課題
4/16~5/29	ハード実験
6/5 (金) 13:15	ハード最終レポート期限
6/4~7/17	ソフト (導入 & 実験)

詳細は Web ページ

ハードウェア <https://isle3hw.kuis.kyoto-u.ac.jp/>

ソフトウェア <https://kuis-isle3sw.github.io/kuis-isle3sw-portal/>



時間と場所

- 時間

- 木曜日 3限～5限、金曜日 1限～5限
 - 木3限／金1限／金3限の開始それぞれで出席を確認する
 - 但し，出席に加味するのは木金とも4限まで
 - TAの勤務時間は4限までですので，16:30 以降は TA に質問しないようにしてください
 - 教員も手薄になるので，5限は自分で進める時間と考えてください

- 場所

- 演習室1
 - 基礎疾患等で配慮を要する場合や、当日体調不良の場合は相談してください



内容

- ハードウェア
 - SIMPLEアーキテクチャに基づく16bitマイクロプロセッサの設計
 - 2人グループで1つのプロセッサを作成する
 - git (GitHub) でグループ内の設計データ共有と差分管理を行う
 - 中間報告および最終報告でのデモとセールストーク
- ソフトウェア
 - 型推論機構を備えたインタプリタの作成
 - 1人で1つのインタプリタを作成
 - 同時期開講講義「プログラミング言語処理系」の前半の内容に強く依存するため、そちらをしっかりと勉強して臨むこと



成績評価

- 課されたレポートを全て提出すること
 - 品質が低い／要求を満足していないものは再提出を求める
- ハードとソフトそれぞれで3/4以上出席すること
 - ハードについては中間・最終デモの出席を特に重視する
- レポートと出席の総合評価, ハードとソフトの合計点で最終評価となる
 - ハードとソフトの両方で合格基準を満たす必要がある
 - 一方が基準に満たない場合は不合格となることがある



注意事項：演習室1の利用

- 演習室1が空いている時間は自由に追加実験できる
 - 平日8:45～18:15まで
 - ただし水曜午後は実験1で使用
- 時間外に利用したい場合は「時間外実験演習 Google フォーム」 ([PandA にリンク](#)) から申し込みすること
 - 申請無しで利用できる時間は平日9時～18時のみ
 - 申請有りでも最長21時まで



注意事項：演習室1の利用

- 演習室1の美化に努めること
 - 金曜4限に担当者（2名）を指名して掃除を行います
 - 使ったスリッパは揃えて元の箱に戻す（下駄箱ではない）
 - **飲食厳禁！！** ペットボトルやコップが出ているだけで注意する
 - 水分補給は部屋の外で行ってください
- 機材のトラブルや故障があったら速やかに連絡すること



注意事項：演習室1の利用

- 計算機端末や周辺機器を私物化しないこと
- 計算機科学コース学生以外の部外者を入室させないこと
- Webに記載の注意事項を改めて確認すること
 - 計算機科学実験及演習 受講上の注意
 - 計算機システム利用の心構え

各自の勉学の一環でない目的の利用は厳に禁止する



実験を進めるにあたって

- 積極的にTA, 教員, 周りの人達に訊く
 - 自分で考えずに何でも教えてもらおうとするのはよろしくないが, 考え込んで最終的に「何もできませんでした」はもっとよろしくない
 - 出席状況が悪い方は、アドバイザーを通じて連絡します



サポート対応

- 質問・サポート対応
 - Slack #実験3hw でも対応します
 - 学生さん同士で助け合いするのも大歓迎です
 - **#実験3hw_random** もあります
 - どうしても恥ずかしい場合はメールでも構いません
 - 個別にではなく le3hw@kuis.kyoto-u.ac.jp に投げてください
 - GitHub Classroom に登録してください（後で説明）



課題における生成 AI (LLM) の使用について

- LLMを使用することを一律に禁止するものではありません。
- ただし、答案作成の過程で LLM を使用した場合は、**その旨を明記した上で、**
 - 使用した目的
 - 使用したプロンプト
 - 使用したモデル
 - LLM からの出力
 - それを踏まえてどのように自分の答案を作成したかを明記してください。



課題における生成 AI (LLM) の使用について

- LLMの生成物を使用する場合は、使用者の責任になります。
- LLMを使用して、自身の名前で提出した制作物について、「LLMが生成したのでよく分からない」とは絶対に言ってはいけません。
- 提出されたレポートについて、抜き打ちで口頭試問をすることがあります。口頭試問で、レポートに書かれた内容にうまく答えられない場合、大幅に減点することがあります。



課題における生成 AI (LLM) の使用について

- 実装課題において初めからから LLM にソースコードを生成させることは学習の効果を大きく下げてしまいます。
- LLM で正しいプログラムを作成させるためには、ある程度の実装スキルが自身に必要です。
- まずは自分でプログラムや文章を書いてみて、能力を付けることを強くお勧めします。



成績評価について補足



重要なこと (遅れて来た人へ)

- **実験室は飲食厳禁**
 - 水分補給は部屋の外で